



### 第10回：連合広島（日本労働組合総連合会広島県連合会）

#### 被爆地にある地方連合会ならではの平和運動と社会への発信 — 高校生平和大使・広島被団協への支援、市民対象のシンポジウムの構想

副事務局長 石原 政将 氏

##### 1. 「社会連帯活動」の位置づけ

— 「社会連帯活動」について、貴組織の運動方針ではどのように位置づけておられますか。

【石原】社会連帯活動は、連合広島の2025年度運動方針における「運動の基調」の5つの柱のひとつである「4. 社会連帯を通じた平和・人権・社会貢献への取り組みと次世代への継承」に位置づけています。「核兵器の廃絶と世界の恒久平和の実現」に向け、被爆地に存在する地方連合会として広範な仲間との連携をはかり、幅広く国民的課題や地域の課題に対応できるよう取り組みを進めています。

また、すべての働く者・生活者に寄り添える運動を目指し、メーデー、ゆにふあん、連合・愛のカンパ、献血活動の促進といった活動にも取り組んでいます。2025年のメーデーでは新たにフードドライブに取り組む計画を立てています。

活動体制については、連合広島本部では、企画立案は基本的に副事務局長（石原氏）1名が担当し、他の役員が関与する形としています。加えて、連合広島内の4つの地域協議会それぞれに専従の事務局長を配置し、防災活動、環境保全活動、平和学習会などの取り組みをおこなっています。

##### 2. 平和運動

###### （1）取り組みの内容

— 貴組織ではとくに平和運動に力を入れていらっしゃるかと思います。具体的な取り組み内容について教えてください。

【石原】連合広島は、被爆地にある地方連合会ということで、その意味合いや位置づけを大切にしながら、「核兵器の廃絶」と「世界の恒久平和の実現」の2点を社会に強く発信していく取り組みをおこなっています。連合本部が毎年実施する、沖縄、広島、長崎、北海道・根室市の平和4行動への参画はもちろん、連合広島独自でも、戦争を体験された方々の高齢化がすすむなか、戦争や被爆体験を風化させないよう次世代へと継承しながら、武力に頼らない平和のあり方を根付かせるべく活動に取り組んでいます。

###### ① 平和や核兵器廃絶に関連する機会をとらえた取り組み

連合本部の取り組みや国際的な会議などの機会をとらえ、連合広島でも取り組みや発信をおこなっています。

たとえば、連合本部の「平和行動 in 広島」の機会には、全国から集まる労働組合関係者に向けて、広島平和記念公園内の慰霊碑や記

念碑を巡る「ピースウォーク」や被爆した路面電車を活用した学習会など、平和の大切さをアクティビティをつうじて体感してもらう機会をつくっています。

また、原爆ドームの世界遺産登録（1996年）にあたって、連合広島が主体となって他の市民団体とも連携しながら署名を呼びかけて実現した経緯がありますので、それを風化させない活動も世界遺産登録の翌年から毎年おこなっています。

そして、核兵器廃絶に向けた取り組みで重要なのが、5年に1度開催される核不拡散条約（NPT）再検討会議のタイミングに合わせた署名活動およびその発信です。署名活動は再検討会議が始まる1年前から、連合本部、原水爆禁止日本国民会議（原水禁）、核兵器廃絶・平和建設国民会議（KAKKIN）が連携して「核兵器廃絶1000万署名」を展開しており、連合広島もとくに力を入れています。また、集めた署名は国連に提出するほか、再検討会議への参加やニューヨークでの集会等の実施を通じて、被爆地にある地方連合会としてのメッセージを発信しています。このほか、世界で核実験がおこなわれた場合には、抗議行動も必ず実施しています。

## ② 平和カンパ

「愛のカンパ」とは別に、平和運動に特化した平和カンパも行っています。このカンパは毎年6月～8月の3か月間、1人当たり20円を目標金額として、連合広島独自でおこなっています。ここで集まったカンパは、平和運動基金に貯蓄しています。以下で紹介する「高校生平和大使」や「広島県被団協」の支援などの平和に関わる活動に拠出しています。

## ③ 「高校生平和大使」の活動支援

1998年から始まった「高校生平和大使」は、全国から公募で選ばれた高校生らによる活動

で、「高校生一万人署名活動」などを中心に平和運動を展開しています。広島県では、現在第27代目となる3人の高校生が活動しています。

高校生平和大使の大きな活動として、毎年、国連に署名を持参しての嘆願があります。高校生平和大使は無報酬で活動しているため、活動の一部を連合広島が支援しています。これからも高校生平和大使と連携しながら、次世代への継承にむけて、取り組んでいきます。

## ④ 市民団体との連携

広島県では、平和に向けた取り組みに関して、「核兵器廃絶広島平和連絡会議」という11組織で構成される平和団体の連絡会議があります。この連絡会議には広島県原爆被害者団体協議会（広島県被団協）やKAKKIN、大韓民国や朝鮮民主主義人民共和国の被爆者団体などが加盟しており、連合広島もその一員として連携を取りながら活動しています。とくに、広島県被団協の方々とは連合広島でも常に連携をはかってきました。

広島県被団協の主な収入源は会員からの会費ですが、被爆者や戦争体験者の高齢化で会員も会費収入も減少している状況にあります。その一方で、語り部活動の依頼や要請が県外や海外からも増えているため、活動の一部を連合広島が支援しています。

## （2）次世代への継承

— 取り組みのお話をうかがって、被爆地にある地方連合会として社会的な発信に取り組んでおられること、また、金銭的な支援だけではなく、さまざまな活動を通じて、市民団体と一緒に歩んでこられたということを感じました。高校生平和大使の皆さんや語り部活動をしていらっしゃる方々にとっても、心強いのではないかと思います。次世代への継承という点ではどのようにお考えでしょうか。

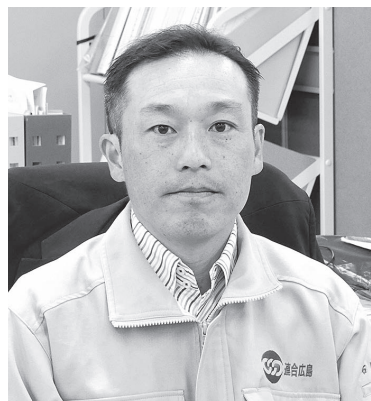
【石原】私たち連合の活動だけでは、次世代の皆さんに共感を得てもらうのは難しく、実際の被爆者の方や高校生代表の発信のほうがより強い説得力を持つだろうと考えています。広島県被団協と、次世代を担うであろう「高校生平和大使」の皆さんとの連携を意識して、戦争体験者の思いを伝えていく取り組みに力を入れているのは、連合広島ならではの取り組みだと思います。

連合広島でできることを考えながら、両組織の要望にも応えていくことが、より良い活動につながっていると思っています。とくに、被爆80年を迎える今年は、平和運動に取り組む方々にとって大事な時期ですので、彼らの活動を最大限後押しできるよう、中長期目線で取り組みを進めていく必要があると考えています。

―被爆80年という節目に、連合広島として計画されていることはありますか？

【石原】一般市民の方々に向けたシンポジウムを6月に開催する予定をしています。連合の集会は、傘下組織に加盟している組合員に限定されることが多いですが、今回は広島に住んでいる方を広く対象としながら、平和について考えたり共有したりできるイベントにしたいと考えています。中学生による発信や、高校生平和大使によるメッセージ、地元で平和に取り組んでいる団体を招いた企画など、堅苦しさは取り除きつつ、「核兵器廃絶」「世界の恒久平和の実現」を市民の皆さんに届けられるような構成にしたいと思っています。

今回、一般市民向けの企画を構想しているのも、連合が果たすべき役割として、労働組合に入っていない人々に向けて広く発信をしていくことが大切だと考えているからです。春闘を例にしても、労働組合のない組織にも賃上げを波及させなければ、日本全体の実質賃金を上げていくことは難しいです。それを少しでも後押しするために日ごろから自分たちの活動を公表して周知していくことを意識しています。私たちの場合、



副事務局長  
石原 政将 氏

平和運動などを強みにしながら、県民・市民に寄り添った活動を心がけていきたいと考えています。

### 3. その他の取り組み

―平和運動のほかにおこなっている取り組みや、力を入れていきたいとお考えの取り組みについてお聞かせください。

#### (1) 人権に関するセミナー

【石原】連合広島では、2002年から、「あらゆる差別をなくし、一人ひとりの人権が尊重される社会の実現に向けて意識啓発する」ことを目的としたセミナーを実施しています。最大の人権侵害は戦争であって、人権が守られる世界を作っていくために平和を維持していくべきだという考えが背景にあります。戦争以外にも、県内の地域によっては部落差別の歴史も聞きますので、人権について考える機会を世界人権週間の12月に設けています。

講演を基本に行ってきました。2023年は多様性をテーマに、タレントとしても活躍するスリランカ出身の「にしゃんた」さんにご講演いただきました。2024年は少し趣向を変え、連合鳥取の会長も所属されている劇団集団「あり」をお招きし、「昭和二十年、夏」というタイトルで、戦時中の鳥取県を舞台にした物語を上演いただきました。セミナーの参加者からは、平和や幸せがいかに大切なのかを感じることができた、他

県の戦禍の歴史を学ぶ機会にもなったと好評でした。

## (2) フードドライブ

【石原】これまで平和運動には力を入れて取り組んできましたが、社会貢献活動は重要な活動と位置づけながらも十分に組み込んでいませんでした。そのようななかで、広島県労福協がフードドライブに取り組んでいくと聞き、連合広島もそれに協力するかたちで始めることとしました。各地域の社会福祉協議会の取り組みや、各 NPO 団体がフードバンクを行っているかどうかなどを調査し、連携ができ次第順次フードドライブを実施し、フードバンクに寄贈していくことを考えています。連合広島で連携の目途が立ったため、今年の広島県中央メーデーでフードドライブを実施する予定です。

## (3) 愛のカンパ

【石原】カンパ金を連合広島から拠出できる団体がしばらくありませんでしたが、広島県労福協などの協力も得ながら、今年は NPO 団体への支援が決まりそうです。今後も NPO 団体と連携を密に取りながら、カンパ金を出してくれた組合員に活動報告できるよう、関係を継続していきたいと思っています。

## 4. 取り組みへの思い

—活動全般に関して、石原さんご自身のお考えや取り組みにかけの思いをお聞かせください。

【石原】労働組合の活動の原点は、組合員とその家族の生活を保障することですので、まずは組合員とその家族に還元できるような労働運動を展開していくということを基本として考えています。一方で、連合広島とは接点がない方々や、小規模の会社の経営者たちとも関わりをもち、連合広島の活動をいかに波及させていくかが、今後自分が追求していくべき課題であると思っています。

ですので、国民運動や平和運動、その他の社会貢献活動をつうじて、NPO などとの関係を構築していくような草の根の活動をはじめ、未組織の働く人たちが何を考えて何を望んでいるのかを“ウォッチ”していきたいと考えています。

### —— 注釈 ——

<sup>1</sup> 広島県被団協の上部団体である日本被団協は、昨年（2024 年）ノーベル平和賞を受賞している。

### 組織概要

構成組織：34 産業別労働組合 4 地域協議会  
10 地区連絡会

組合員数：132,200 人（2024 年 11 月時点）

結 成：1990 年 1 月 31 日

URL <https://www.rengo-hiroshima.jp/>

（インタビュー日：2025 年 3 月 17 日）

このインタビュー連載は、2024 年 5/6 月号よりスタートしました。地方連合会の連帯活動は、組織（地域）ごとに特色があり、多様な活動が展開されています。この活動に光をあて、地域の運動がどのように紡がれてきたのか、また、これからどのように展開していくのか、インタビューをつうじて（再）発見できればと考えています。